

# セルビアで障害者自立支援へ

# 「紙すき」を仕事に

技術を学ぶ 現地スタッフら 生駒市長を表敬訪問



セルビア共和国の現地スタッフらが小紫雅史市長を表敬訪問した=4日、生駒市役所

生駒市吉分町のいこま福祉会(関谷多摩恵理事長)は、国際協力機構(JICA)の章の根技術協力事業

の採択を受け、南東ヨーロッパのセルビア共和国で知的障害者の自立支援事業を始める。同会福祉事業所で実践する紙すきの技術を現地に持ち込み、障害者の仕事として確立させる。4日には同技術を学ぶため、

日本を訪れた現地スタッフ3人が生駒市役所の小紫雅史市長を訪問し、それぞれ思いを語った。

平成26、28年にJICAのシニア海外ボランティアとして同国で障害者施設の自立支援に携わった前田敏機さん(75)が、帰国後も継続的な支援をしないと協力者を採っていたところ、いこま福祉会が賛同。JICAの事業に応募し、昨年3月に採択を受けた。

事業では、同国は喫煙率が高く、たばこの空き箱が大量に破棄されていることから、リサイクルして手すきの和紙をつくる作業を障害者の仕事とすることを目指す。期間は今年1月から約2年間。まずは手すき技術を学ぶため、同国の現地スタッフ

3人が先月30日に来日。10日、3週間、生駒市に滞在し、手すきや日本の障害者福祉を学ぶ。

前田さんは「セルビアは豊かな国ではなく、障害者まで手が回らないのが現状。紙すきをツールに障害特性に合った支援を展開していければ」と話していた。